

令和 8 年度 東京都立田園調布高等学校 学校経営計画

I 目指す学校

1 教育目標

「学芸を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、心身共に健康で、公正な判断力と強い実行力のある人間を育成する」

2 スクールミッション

「学芸を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、心身共に健康で、公正な判断力と強い実行力のある人間を育成する」を教育目標とし、学習指導と学校生活の充実を図り、生徒が自ら学び自ら考える力を涵養し、未来社会で活躍できる人材を育成します。

3 グラデュエーション・ポリシー

『未来社会で活躍できる人材の育成』

「誠実・敬愛・自主・自律」の生活信条のもとに心身共に健康で生涯にわたり学び続ける力をもった、規範意識のある生徒の育成を目指しその実現に努める。すなわち、学力のみならず、未来社会を「自ら考え、自ら創り上げる」ことのできる生徒を育む。

4 カリキュラム・ポリシー

○知識・技能を高める教育

(生きて働く基礎・基本を身に付けさせる。)

○思考力・判断力・表現力を高める教育

(課題解決に向けて自らの知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を付けさせる。)

○未来社会で活躍できる学びに向かう力、人間性の育成

(自己肯定感を育み、高い志をもち、豊かな人間性を育成する。)

○生涯にわたり健康な心身を維持し、体力向上に励ませる教育

(教科学習だけでなく学校行事や部活動への取り組みを通して、互いに成長できる指導を推進する。)

5 アドミッション・ポリシー

○ これからの社会で自ら行動し、活躍しようと目標をもっている生徒

○ 高校での全ての学びに、真剣に取り組み努力を続けられる生徒

○ 高い志を持ち、上級学校等へ進学を通して生涯学び続ける意志がある生徒

○ 本校の生活信条を理解し、日々の生活で実行できる生徒

II 中期的目標と方策

1 本校のスクールミッションを実現出来るよう、教職員が協力して学校運営にあたる。本校の運営に関わる全ての者が、「未来社会で活躍できる人材の育成」に関わっていることを自覚し、自らのライフ・ワーク・バランスを考え、全力で職責の遂行に取り組む。

2 授業の充実

教務部が学校全体の授業の進行等を管理する。学びの本質を意識し、生徒の進路志望を実現させることをねらう。社会や生活とのつながりを踏まえ、様々な切り口から生徒に問いを投げかけ、生徒に考えさせる対話型の教育活動を行う。「未来社会で活躍できる人材の育成」をねらい、世界を視野に新しい時代を切り拓く人材の育成を意識したグローバル人材育成やデジタル活用の教育を進める。

3 進路指導の充実

進路指導部が中心となり学校として継続的な進路指導計画を作成する。生徒一人一人が将来の自己実現に夢と希望をもてるよう、ガイダンス機能を充実させ、模試等の分析を基に根拠のあるキャリア教育の進め方を全職員に示し、全職員が協力して進路指導を行う。

4 生活指導の充実

生活指導部が中心となり、本校の生徒としての帰属意識を醸成し、生活規律の向上を図る集団づくりを推進する。また、生徒の心身の状況について教職員で情報を共有し、外部機関との連携も踏まえ、適

切に対応する。

5 特別活動、部活動の充実

全日制普通科高校として、学校行事、ホームルーム活動、委員会活動、生徒会活動、部活動の充実を図る。全ての活動に適切な目標をもたせ、生徒の主体性、計画性、他者とのコミュニケーション能力を育てる。活動にあたっては、生徒の自主・自律の力を育み、自ら考え行動できるよう指導を行う。

6 関係諸機関との連携・学校PR

近隣の地域の諸機関や教育機関との連携・交流、「人間と社会」や「総合的な探究の時間」の活動、学校開放をととした地域に根ざした学校づくりを推進する。また、本校の教育活動をホームページ等でPRし、地域に開かれた学校の運営を進める。

7 施設の適切な管理と更新

築40年に迫る校舎について、生徒や教職員が安全で安心して使用できるように、施設管理を行い、破損箇所や屋内照明、段差などの改修について、関係機関と協議し、魅力ある学校づくりを進める。

8 防災・減災にむけた取り組み

近年の気候の変化や首都直下型地震などに備え、防災・減災への対策が必要となっている。本校にかかる生徒・教職員またその関係者の命を守るための施設整備や減災意識の醸成を進める。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

1 学校経営・組織体制

(1) 目標

本校生徒一人一人が、安心・安全に学校に通い、一般入試で大学進学ができる学力を身に付けさせるとともに、行事や部活動、委員会活動、課外学習など社会と関わる活動を経験し、様々な価値観に触れ、希望する進学先等において学びを深められる土台を作ること为目标とする。

このために、目の前の生徒の為に何が出来るかを全教職員で考え、ライフ・ワーク・バランスを考慮しながら全員で協力して取り組む。計画は担当者が行い、実施は全教職員が行うこととする。「チーム田園調布」の一員として学校経営計画を着実に履行する。また、教育に携わる職員として、「教職員の服務に関するガイドライン」にのっとり、服務の厳正に努める。

(2) 方策

①学校経営計画に基づき分掌、学年、教科、経営企画室は互いに連携・協力して、計画達成に向けた分掌や学年の運営、教科指導を行う。教職員で共通理解がもてるよう主任が中心となり調整する。

②アドバンストクラスを含むすべてのクラスで、行事や部活動などにも着実に取り組み、成功体験をさせ、教科学習と特別活動等を切り替える力を身に付けさせる。副担任は、担任が生徒指導を行いやすいように連携を密に行い、学年チームの一員としてサポートする。

③教職員一人一人がその職責を十分に理解し倫理観や規範意識等を一層高め、「教職員の服務に関するガイドライン」に基づき、研修を行うとともに、各人は服務の厳正に努める。

2 学習指導

(1) 目標

中間的目標を踏まえ、生徒の学力向上に全教職員で取り組む。各教科・科目において、担当者独自の切り口は大切にしながらも、教科・科目として、授業計画を組織的に作成し、学習内容や進度を揃え、生徒の学力向上と、受験に対応できる内容・アプローチでの授業展開を行う。また、3観点をバランスよく育成する授業を実施する。総合的な探究の時間（人間と社会を含む）の充実に努め、社会と関わる学びや活動、教科横断型の学びの機会を創出し、文系、理系にとらわれない総合的な学力の定着が図れるよう全教員が協力して取り組む。

(2) 方策

①教材や指導方法の研究を組織的に進め、生徒にとって魅力ある授業を行う。生徒の授業満足度の向上を図る。

②3観点をバランスよく指導し、評価と指導の一体化を図ることで生徒一人一人の力を伸ばす。

③週末課題等の宿題については、学年の教科担当者間で出題の総量を調整する。生徒の主体的・自律的な学習活動を支援する。

④自校や他校の授業を年2回以上参観し、教科指導力の向上を図る。

⑤「GE-NET EE」の指定を活かしオンライン英会話や外部検定試験の受験、JET・ALTを活用した授

業、異文化理解の機会を増やし、世界を視野に新しい時代を切り拓くグローバル人材の育成を目指す。

- ⑥「理数研究拠点校」の指定を活かし、関係教科の教員を構成員とするPTを設置し、大学や企業等の外部機関との連携や、フィールドワークの実施、TOKYOサイエンスフェアでの発表、電気通信大学の高大接続プログラムへの参加を通して理系人材の育成を図るとともに、教科横断の取り組みも試みる。
- ⑦ICT機器の活用を推進し、一人1台端末の授業等での活用をICTリーダーが例示し、教科、学年、総合的な探究の時間にて実施する。デジタルサポーター（ICT支援員）の協力を得て、各種システムの活用を進めると共に、校内研修会を実施し活用の促進を図る。
- ⑧読書活動を推進し、学校図書館の有効活用を図る。また、ビブリオバトル（書評合戦）等の参加を通して、本を媒介としたコミュニティの向上、表現力、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- ⑨総合的な探究の時間の充実を図り、地域や自ら関心のある課題について、探究することを通して、未来社会を「自ら考え、自ら創り上げる」人材を育成する。
- ⑩本物に触れる機会のある取り組みを進め、校外での活動や外部講師の招聘を含め、生徒の知的好奇心の向上を図ると共に、地域や社会と関わる場を増やし、生徒自らが広い視野をもつ機会を作る。

3 進路指導

(1) 目標

進学実績の向上と進路指導の充実を目指す。進路指導部を中心に学年と協力して行う。3年間を見通したキャリア教育の推進と、取り組み内容の視覚化を推進する。一人一人に合った進路情報を提供し、最後まであきらめない受験指導を行う。進路指導に必要なデータの共有・活用を図り、国公立大、難関私立大をはじめとする、生徒の進路希望実現に向けた指導を、進路指導部を中心として計画的に行う。

(2) 方策

- ①生徒の学習状況を教員が分析し、学習指導、進路指導に活用する。具体的には模試結果（全体・小間）や定期試験の分析（リアテンドントの活用）を各教科で行い、その後の教科指導に役立てる。
- ②進路ガイダンス等を充実させ、文理にとらわれない学力の育成を図る。国公立大学や難関私立大学の総合型選抜をはじめとした様々な選抜の情報を提供し、受験の機会を増やす指導を行う。
- ③担任による三者面談・個人面談、進路指導部による進路相談等の充実を図り、生徒の進路意識の醸成に努めるとともに、保護者の協力を得る。（模試データのFineSystem等の活用）
- ④本校の特長であるアドバンストクラスの指導には全ての教員が関わる。アドバンストクラス講習は、教科として1年間を見据えたカリキュラムを整備し、教科として複数の教員での対応を進める。進行管理についてはアドバンスト委員会と進路指導部、学年が協力して行う。

4 生活指導

(1) 目標

生徒にとって安心・安全な学校を経営するとともに、本校への帰属意識を醸成し、生活規律の向上を図る。他者を思いやり、心豊かな学校生活を送り、未来社会で活躍できる人材となるよう指導する。生活指導部を中心とした組織的な生活指導（学年毎に指導が異なることがない）を行い、TPOをわきまえた身だしなみの指導、校内規律及び遅刻指導の徹底を図る。また、特別支援教育について、学年、分掌、教育相談委員会等で事案の共有を行い、適切な対応を行う。

(2) 方策

- ①全ての教員が学校の指導方針を共通理解し、生徒一人一人に寄り添った生活指導を行う。生徒の情報は全職員で共有し、生徒・保護者対応を丁寧に行う。
- ②生徒の課題を把握するために、生活実態調査を行い、基本的生活習慣の改善点を明確にし、指導の確立を図る。
- ③「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケートを年3回実施する。いじめ防止・教育相談委員会の毎月の実施及びスクールカウンセラー、専門医派遣事業利用による医師の効果的活用を通して生徒の悩みの解決に努め、生命尊重に資する教育を推進するなど、生徒の健全育成に向け、家庭・関係機関と連携し、学校全体の相談機能の充実を図る。また、地域の福祉資源との緩やかな連携を進める。
- ④SNSの利用について、関係機関の連携、SNSルールの活用、生徒自らの動きなどを促し、適切な情報リテラシー、情報モラルを育成する。
- ⑤地域と連携した防災訓練等を計画的に実施し自助、共助の大切さを学び、自分事としてとらえさせる。

- ⑥本校の生活信条に生徒自らが向き合い、生徒同士で対話し、行動する機会を作る。
- ⑦自転車通学時のヘルメット着用や交通ルールの順守について、粘り強く働きかける。

5 特別活動・部活動

(1) 目標

よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。体力の維持向上、健康の保持増進に計画的に取り組む。

(2) 方策

- ①授業を土台として、学校行事、委員会活動、部活動の充実を図り自己肯定感と学校への帰属意識を高め、学校生活の満足度の向上を目指す。
- ②授業、部活動等を通して体力向上の取組を実施する。東京都体力・運動能力調査の体力合計点平均値で、東京都平均以上を目指す。
- ③生涯を通じて生徒が、自らの健康や環境を管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
- ④生徒会執行部と校長、生活指導部との話し合いを定期的実施し、生徒のやりたい気持ちを可能な範囲で後押しし、生徒が生き生きと活動するような学校運営を目指す。

6 募集・広報活動

(1) 目標

進路実績や部活動、社会と関わる活動などを充実させて、本校を志望する中学生を増やす。近隣の中学校や学習塾に本校の活動を広く広報し、田園調布高校の教育活動を応援してくれる人を増やす。

(2) 方策

- ①本校に在籍する生徒の満足度を維持向上させ、本校の魅力を口コミベースで広げる。
- ②学校説明会等で、本校生徒の活躍を見せ、中学生やその保護者に入学後のイメージをもたせる。
- ③中学校、学習塾等へのPR（訪問・資料送付・塾対象説明会の開催）を充実させる。
- ④学校ホームページの充実。（生徒の生き生きとした活動の掲載、募集対策のページの充実）

7 防災・減災に向けて

各授業や行事、部活動などの際に、災害を意識した避難行動を考えさせるように留意する。また、被災地訪問を企画実施し、本校生徒の防災・減災意識と技術の向上を目指す。

IV 数値目標

- (1) 大学合格者数を、国公立大 10 名以上、難関私立大（早慶上理）10 名以上、私立大（GMARCH）60 名以上とする。
 - （令和7年度 国公立大 4名、難関私大 11名、GMARCH 82名 大学校 1名）
 - （令和6年度 国公立大 6名、難関私大 7名、GMARCH 63名）
 - （令和5年度 国公立大 4名、難関私大 9名、GMARCH 63名）
- (2) 学校評価アンケートの「本校に入学して満足している」と回答する生徒、保護者の割合を増やす。
 - 生徒：85%以上（R7：84% R6：82% R5：72%、R4：84%、R3：77%、R2：84%）
 - 保護者：90%以上（R7：91% R6：90% R5：75%、R4：87%、R3：85%、R2：88%）
- (3) 学校評価アンケートの「生徒の進路希望実現に必要な学力を育む授業を行っている」と回答する生徒の割合を増やす。
 - 生徒85%以上（R7：88% R6：89% R5：83%、R4：84%、R3：75%、R2：75%）
- (4) 1・2年生の部活動加入率75%以上にする。（R7：78.2% R6：69.5% R5：72.5%、R4：76%）
- (6) 入学者選抜最終応募倍率を推薦2.5倍以上、第一次募集1.6倍以上にする。
 - （令和7年度 推薦2.67倍 第一次募集1.63倍）
 - （令和6年度 推薦1.96倍 分割前期1.41倍 分割後期2.75倍）
 - （令和5年度 推薦2.5倍 分割前期1.87倍 分割後期1.25倍）
- (7) 東京都体力・運動能力調査の体力合計点平均値を、東京都平均以上とする。
 - （令和7年度 男子 50.4（東京都平均 51.3）・女子 49.2（東京都平均 49.6））
 - （令和6年度 男子 51.1（東京都平均 61.9）・女子 50.3（東京都平均 53.3））
 - （令和5年度 男子 51.1（東京都平均 62.9）・女子 50.6（東京都平均 54.2））